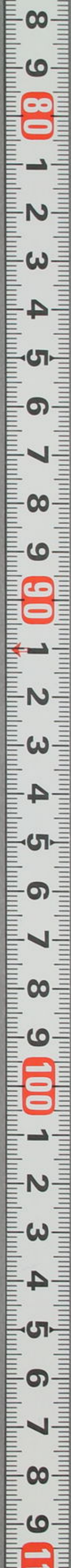




都名所圖會

平
女
城





とるのしるすたひん
賦し起る系かよ一休
ろく志くせり地さる
遠しうくは返り共
ふり民まはるる心木

かし付石上ゆり事
ふり付るる今衆
ふり付るる今衆
はししる空は強敵の
ふり付るる今衆

凡例

- 一 此編の巻首に平安城とあり其四方に帝初鎮後の四神小官とあり免神社の芳境佛図に佳邑山川の欠観を今時の風景にのりてのまに模写し舊本花洛細見圖を増益して時々其遺漏を巡歴し按社州府たりと一字と傳は幼童に坐して古蹟の勝地と見ると肝要と云
- 一 文後宮古兼時記山城名所紀行と稱し且舊記不委を其大意板とるし又脱漏あり微細に搜て求むるは撰書とる事致專と云
- 一 圖中に境地廣大なる所の夜々細画之狭少なる神祠小堂を又亦其故み果毎に人物あり形容を以て微少なる人物は其地廣大とるべき形容微少ありは境地狭少なり碎云ハ加茂社と野宮との境地を知るとるは便と云

一 圖中の間より人物は六画あり四時の住持を賞して極楽の地を
 知りたためし洛東の花見宇治堂将等と
 一 圖中れ名所又連綿の地あり園乃上に糸系と云ふあれと
 繫く八幡神宮寺より宿院を法ありといふ宇治乃橋より
 惠心院興聖寺ふとの連綿の地と
 一 比叡山の圖あり東塔坂存り近江之志りれども西塔より
 連綿の地ありて除くは後だん山崎岩観音も橋別乃界
 ふとごもよき縁たればふとご図と

都名所圖會卷之一目錄

平安城首

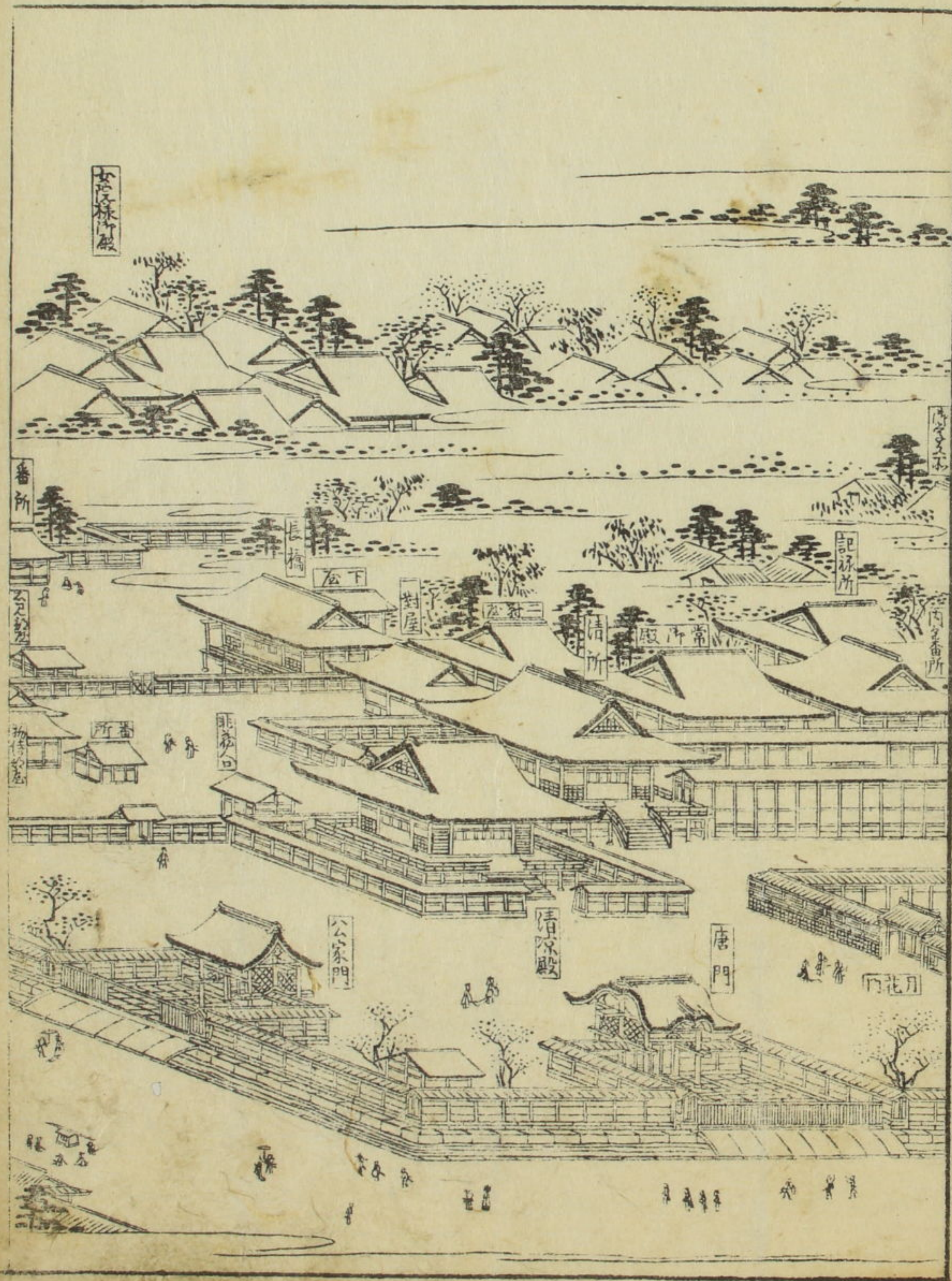
| | | | |
|----------|-------|-------|---------|
| 内裏圖 | 上御靈 | 中川 | 相國寺 |
| 京極八幡 | 幸神社 | 糸井 | 妙覺寺 |
| 妙蓮寺 | 妙顯寺 | 本法寺 | 千宗佐家 |
| 大應寺 | 報恩寺 | 堀川 | 一条庚橋 |
| 小野小町草紙洗水 | 安倍清明社 | 水天天神 | 興聖寺 |
| 瑞光院 | 本隆寺 | 桜葉宮 | 石像寺 |
| 欽喜寺 | 石神社 | 聚樂亭旧地 | 般舟院 |
| 西陣織物袴 | 淨福寺 | 大超寺 | 阿弥陀寺 |
| 十念寺 | 本滿寺 | 廬山寺 | 淨華院 |
| 下御靈 | 革堂 | 清荒神 | 高田本誓寺 |
| 妙滿寺 | 本徳寺 | 頂妙寺 | 源三位頼政旧跡 |
| | 信長塔 | | |
| | | | 定家々塔 |
| | | | 法然水 |
| | | | 家隆々基 |
| | | | 式子内親王家 |
| | | | 定家々塚 |
| | | | 時雨の草 |

| | | | |
|------------------------|-------------------------|--|--------------------------------|
| 高松神明社 | 西行水 | 御所八幡 | 天性寺 |
| 久田地藏 | 生洲 | 三条橋 | 檀王 |
| 瑞泉寺 | 先斗町 | 六角堂 <small>池坊</small> | 錦天神 <small>千鳥池 塩竈社</small> |
| 園福寺 | 蛸薬師 | 虎茶師 | 長金寺 |
| 腹帯地藏 | 泉式部塔 <small>軒端梅</small> | 誓願寺 <small>未用紅 赤菱石 羽三井</small> | 柳の水 |
| 空也堂 <small>茶釜責</small> | 神泉苑 | | |

畫工傳精畫編地
 騰心翁不科勞跬
 步帝巖在目中

和克明





上御靈社と平安城鞍馬口通南あり多神早良親王 伊豫親王 藤原夫人 文徳太子 橘 逸勢 藤原廣嗣 吉備大臣 大雷神

等の八所清靈あり本准院の清宇天慶二年鎮を奉りし一は北上出雲寺あり故出雲治清靈より例祭八月十八日中清靈の系益通盧と守の南あり 當社の清藤所あり

○早良親王の光仁帝第二の皇子なり延暦四年九月朝廷に傾身なりと議をめぐりし其國へありたり淡海國に遷一同國高瀬に至り氣絶

と覺し入靈出宗ありたり同十九年七月小崇道天皇の追號を宣下しあり紀伊郡藤原神社 ○伊豫親王を崇道天皇の清子なり平城帝の清時

逆心ありたり川原寺におわて飲食を通せ給り ○藤原夫人の崇道天皇の后吉子と號し伊豫親王の清母なり ○文友宮田九の承和十年十二月小謀叛に企て

て伊豆國に配流し奉りあり ○橘逸勢右中辨從位下入居の子之孫滋帝の清時の子書りて奉朝三等の具一人なり仁明帝の清宇承和元年七月小謀叛の事あり

とまはし伊豆國に流罪せし九月小死あり ○橘廣嗣と名宗宇合の才一子也大宰府おわのて叛逆ありし大野東人宣旨を奉り馳向て殺り廣嗣敗北し

て自刃を以て首を落し其頸忽天昇り空中より赤鏡とありたり人おとくく即死と豊後國鏡宮肥前國板櫃明神等け靈衣は川より ○吉備大

臣の右大臣正二位之奉朝と世雙の才人之正天皇に遺唐使之唐士ありて野馬臺の文を讀んことりふ文議曉しことりお小ま朝初瀬の親世音お心中におせり

且時蜘蛛くよりて糸を引て教をねを容易ありたりと云平五年小歸朝し光仁帝寶龜六年薨りあり年八十二歳 ○火雷神は北野天満天神なり

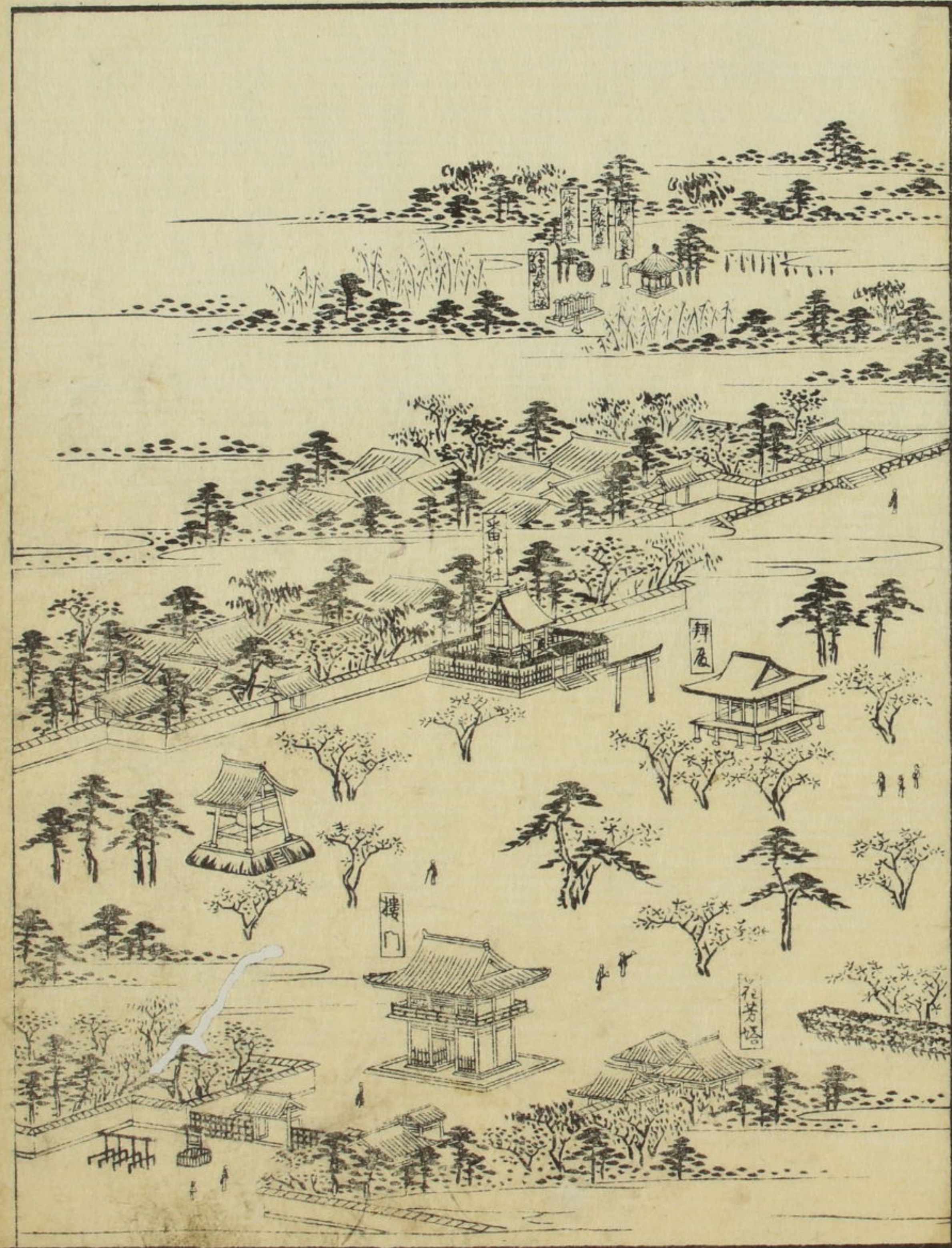
觀音堂に本尊の聖徳太子の位ありて聖親世音足利出まされ奉りしと云中川之上清靈れまの流より鴨川と東川といひ桂川と西川といひ其中におわしゆと

一一名系極川とも號今れ系極通寺院の筋ふ川あり藻垣岬より中川の系極川なり足清堂殿は法成寺の向と流りてを又源氏巻に潜りて中川に

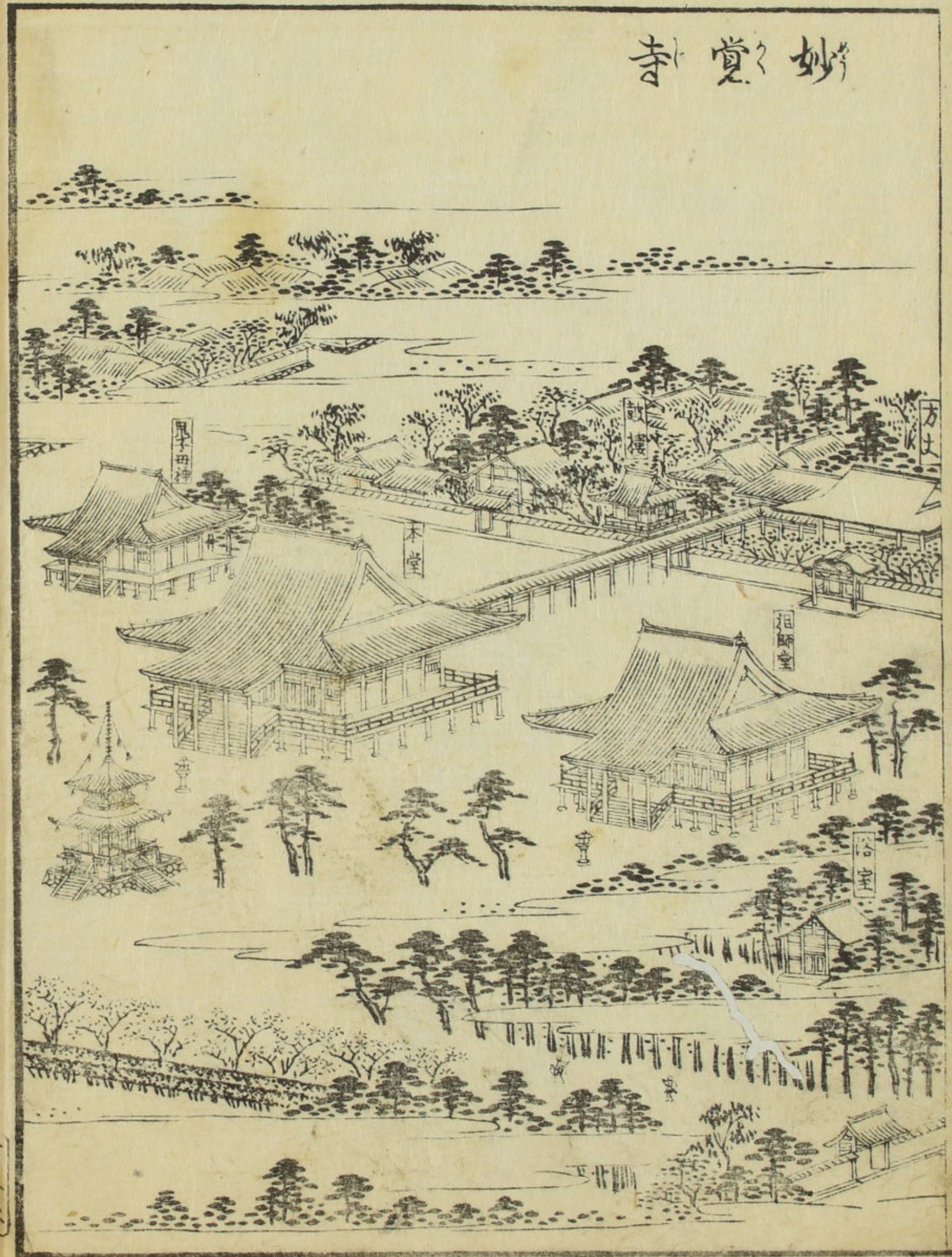
ふゆと空際と基とありしものあり けはるるありし水とせれ入る本流とて一は中川れ名 光俊 清後とるりの中川の人ぬと流りてせらるるありせ放らん 穿真法師

相國寺





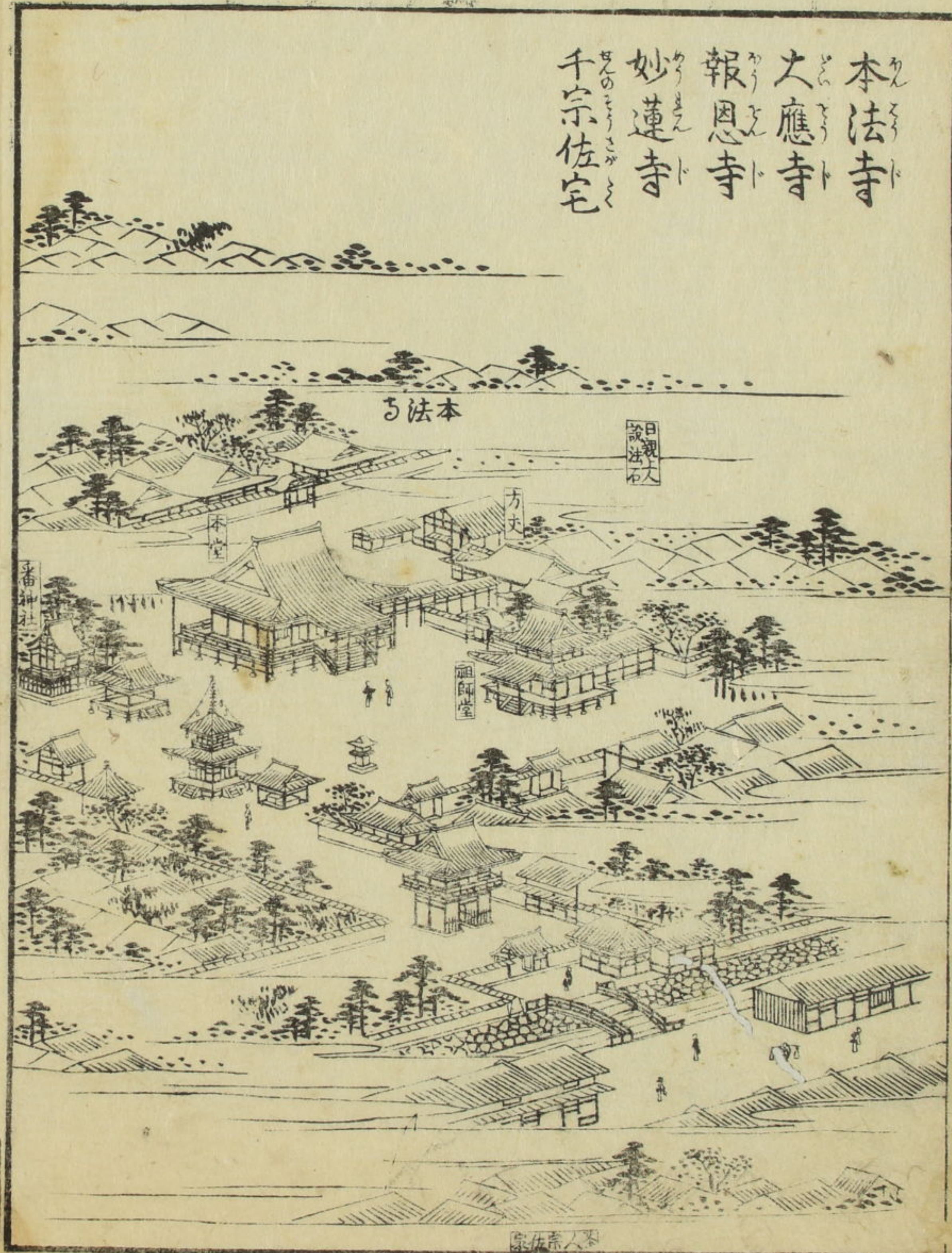
妙覺寺



萬年山相國承天禪寺今出川の北あり五ノ尺身二寸して用基とて空窓圓師二世
妙葩後小松院清平明德三年足利二代の將軍義滿公に建立せり佛殿より釋迦
佛と安坐迦葉阿難と左右に連座大元の像と照遠小安の祖師坐す小の空窓圓師
の像あり後水尾院此所再建して同帝の神牌に安坐して三重塔を大日如來の
本尊とすこれ後水尾院の所再建して山門は圓通閣といひ休政功德院と號し橋
は八畷橋とせん名はけりり庫裏の傍に毘沙門天を安坐其殿に坐すして
普光院此竹林の西門に定家卿の墓あり
法然水の塔頭松鷗軒にあり
系極八幡宮上清靈西あり諸社根元記曰古の三條系極小あり應仁の以後此
ふんと盛衰記曰系極寺古の末社あり今直言の僧此所守り
出雲路神系極北西今出川の小あり所後田長命して道祖神あり今
幸神此旧地と系極北東
縣井戸洛陽の名所と古二条北東洞院の西あり
縣官儀あり

後橋 都人きてもありあんな姓なりありはなりのゆかりありか 楠公平女
傳後撰 性好くありこの井と小まゝくわれてさやまんんのは 後鳥羽院
具足山妙覺寺新町頭法義宗して用基日實上人あり樓門の金剛力士
弘法大師此化之祖師堂日蓮日朗日像三師の像と安坐此
恰好比類諸堂 花芳塔日蓮自筆の法義經と収心紫印金乃曼
茶羅角龍曼茶羅と共日蓮の茶して當寺に什寶あり 此寺のありへも
あり今妙覺寺町とて正年中秀吉命ふりて地ありの
又當寺小画野古法眼信具外野家代の墓あり
卯本山妙蓮寺と寺内通小川の西あり右は宗ありて用基日像上人あり古の
西洞院五条小あり柳屋仲具といふの日像と歸依して宅地飯寄附柳
寺と稱其後大宮通四条南小あり又之也極願寺通大宮に遷正北四年
小地小移と當寺の什寶に祈雨の本尊とて日蓮上人此自筆法義此曼茶
羅あり後光嚴院此字大下大且早は本多故以桂川のなり此後雨
れ法と修むむ靈靈ありて大雨粒自乃故日蓮上人小大善薩の號と稱る





具足山妙顯寺も小川の北にありは善宗ありて開基日像上人は洛陽より

日蓮宗取初の寺之後醍醐天皇に勅願所とす初西洞院二条に南あり天正

立像に釋迦佛の長子ありて黄金の日蓮上人常持念しぬるを蜀錦

の曼荼羅羅經一九の曼荼羅羅經日蓮上人筆ありて當寺の什物經一九日像上人の

金剛山大應寺の妙善寺の西にあり宗音天台真言比叡山に屬して開基を虛應

和尚之佛教も釋迦佛を尊く迦葉阿難を脇士とす願を大應とせ

して其磔磔えれ等之後花園院の後に押れ隅竹林の中にあり

叡昌山本は寺も大應寺の南にあり法善宗ありて開基日親上人の本堂に願

光悦書に初後小路の西にあり中頃一条堀川に西移り又天正年中に今地あり

今日菴宗且其家も本法寺人の所にあり千家累代の系人ありて上流と

號と宗具千利休の孫あり中具の息の

竟天山報因寺の小川に西上り交差あり浄土ありて智恩院に屬し初天台浄土の

善宗公兼學及開基明泉和尚と西蓮社慶譽上人浄土の二宗と改む本尊と

阿弥陀佛ありて安阿弥の位あり當寺の什物小虎の画あり四明陶僧の筆あり

秀吉公の耐聚樂亭ありて夜に聲が發せ故世人鳴虎と稱す

堀川北水上に二流あり其一鴨川の枝ありて上流より人家の下に流れあり

形に一条尻橋下りて合流を小川といふ又一流は舊峯より出て今宮東に流れ

名は若狭川といふ其尻橋下りて合流に東に流れて上鳥羽より鴨川に

水上と名をとりてありて其代は堀川のあり曾祿好忠

尻橋を一条通堀川に上りて安陪晴明十二神將に橋下鎮を奉依りて時ハ喚

是を傳ふ世の人心といはれ橋ありて合流に神將の位ありて其代は堀川のあり

二位殿一条堀川尻橋の末の爪車と云ふ又三善清約死する時子に淨戒父を

と名に然形は名橋と云く入信し橋にありて及んで父の喪送ふ遇ふ撥と止て橋上

置肝膽に推し念珠に採大小の神祇と稱す遂に咒力陀羅尼托徳ふりて閻羅

王界に徹し文清の息孫を淨戒と稱す揮て父を抱き家より歸るありて名は

けく世人尻橋といふ是洛陽に橋あり

一條戻橋

やましろけ

ととろり橋

家来

いほく

あま

帰る

さぬ

後れ

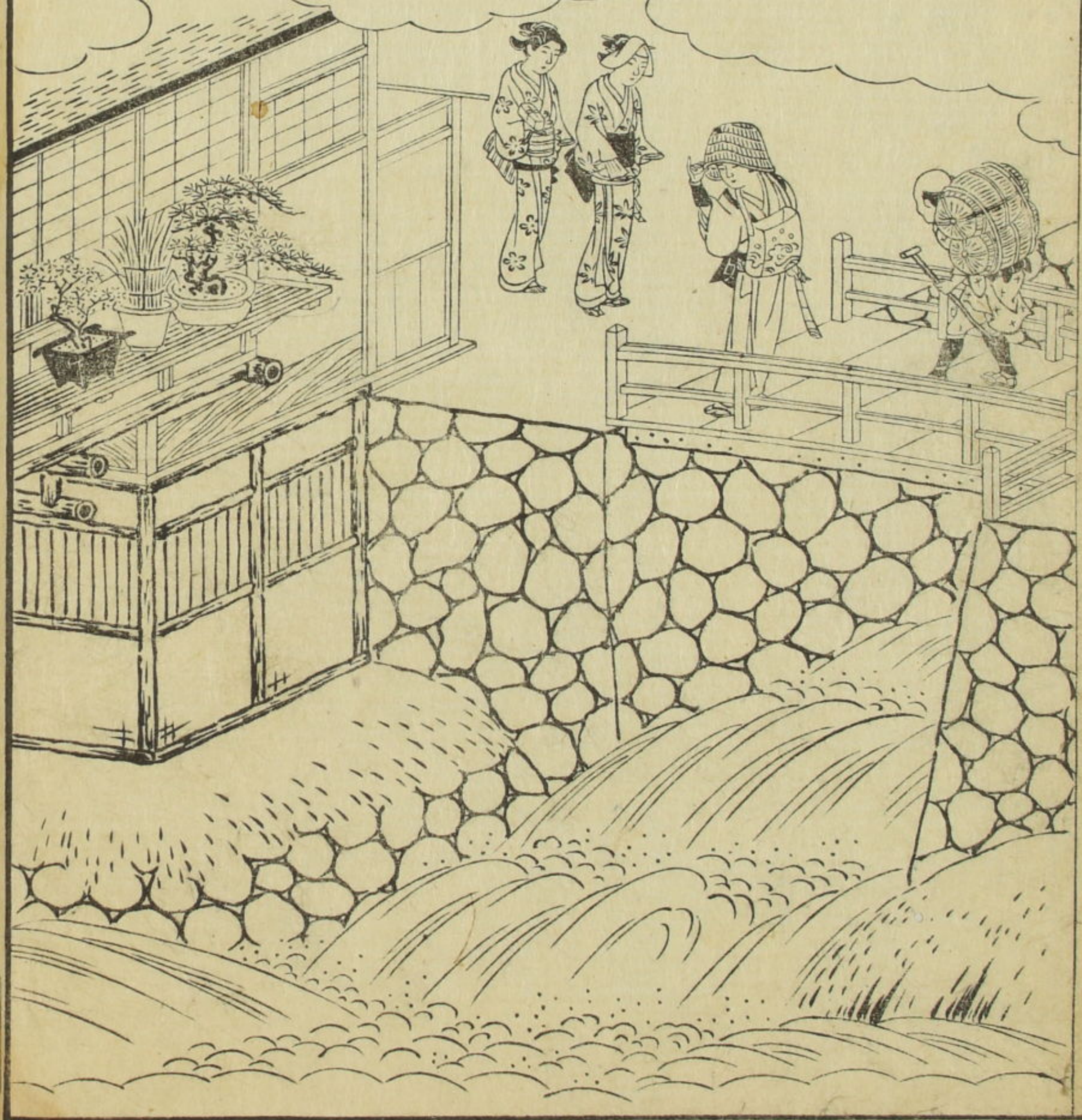
ととろり

橋

人の

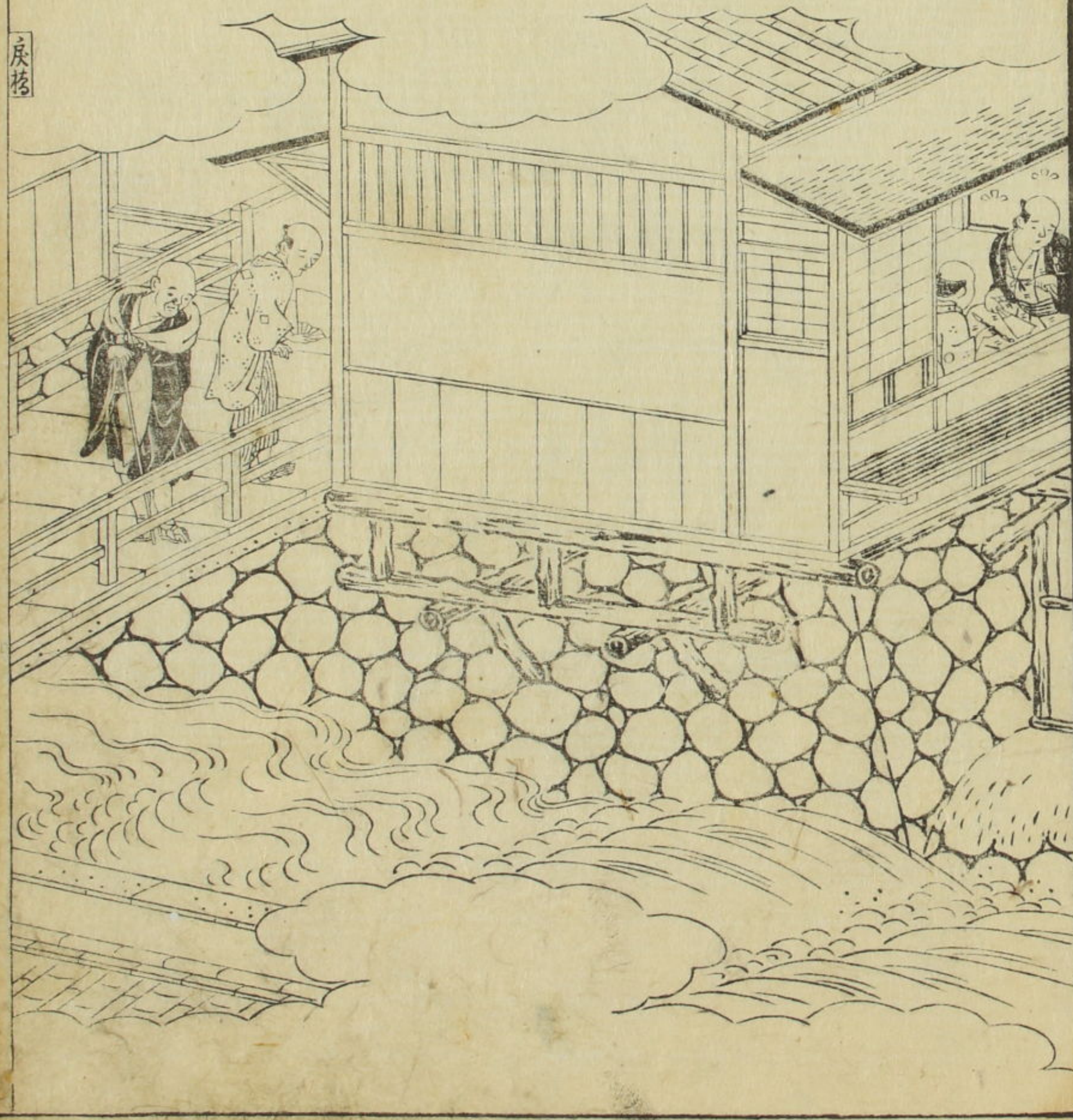
いづん

和泉式部



替札の奥入
古の橋板通る
車婦やも橋
の名よとらりて
形り又旅を
人よとの板
貸付通るを
あらよ反と
ととろりさ

戻橋



小野小町雙紙洗の水を戻橋の良諸侯を浦に居るあり清水といひ侍
 小町塔あり暗明水い所あり安陪暗明密法修行した神あり下り松
い所あり一条の下り松は是なり

安陪暗明社と一条の西葎屋町暗明町ありあり所暗明が靈神之
 古といひ地暗明の居館ありとそ

水火天神の堀川に小天神の辻子ありあり所水火に靈神ありとそ
 瑞光院の安居院にありありの海路縁の身完之鎮守に神あり

稻荷と称し播別赤穂城主法師内匠頭長矩具外家臣の塔一基あり
 大石内藏の長雄と始當院に什物内藏の画像辞世の詩歌書翰等あり
義長四十六人死にたを

惠光山本隆寺と又辻の小あり法喜宗ありて用基の日真上人の題目の
 石塔を日像上人に奉るくつら當寺八四糸の西あり中頃西陣あり

櫻葉宮と出水通千奉れありあり所大照を神にむり右近馬場
 天降りの人日像の神明と称し

水火天神
 瑞光院



石像寺



家隆山石像寺と千本通五辻の山あり浄土宗あり本尊阿彌陀佛を

管公に浄化有り地蔵堂あり弘法大師の作りあり石像あり

ありて靈験いらるる石像寺 前上総女藤原朝臣家隆卿の塔あり

北向山歡喜寺へ上立賣の西あり真言宗あり本尊歡喜天と弘法

大師の作りあり當寺を醍醐帝の勅願所ありて因基弘法大師とて

石神社と歡喜寺の西ありあり所長六丈あり此處石あり土藏の中へ安

並に舊と天内裏れ境内あり

聚樂亭れ旧地と三条の南二条の山ありて東へ大宮と限り西へ朱雀通

坂場とて大岡秀吉公天正十二年小城郭と築れ壯麗ありとて威と重とる

まねとて殿閣あり七寶を鏤る名木奇石ありて秦の阿房宮前漢未央宮

みとねとて寶閣あり十六年四月行幸ありて和ふれ浄會浄社あり

其後園白秀次とてなほありて文禄四年の滅亡ありて樓閣ありて此寺に院

ありて今聚樂の名れと遺り町れ惣名とありぬ

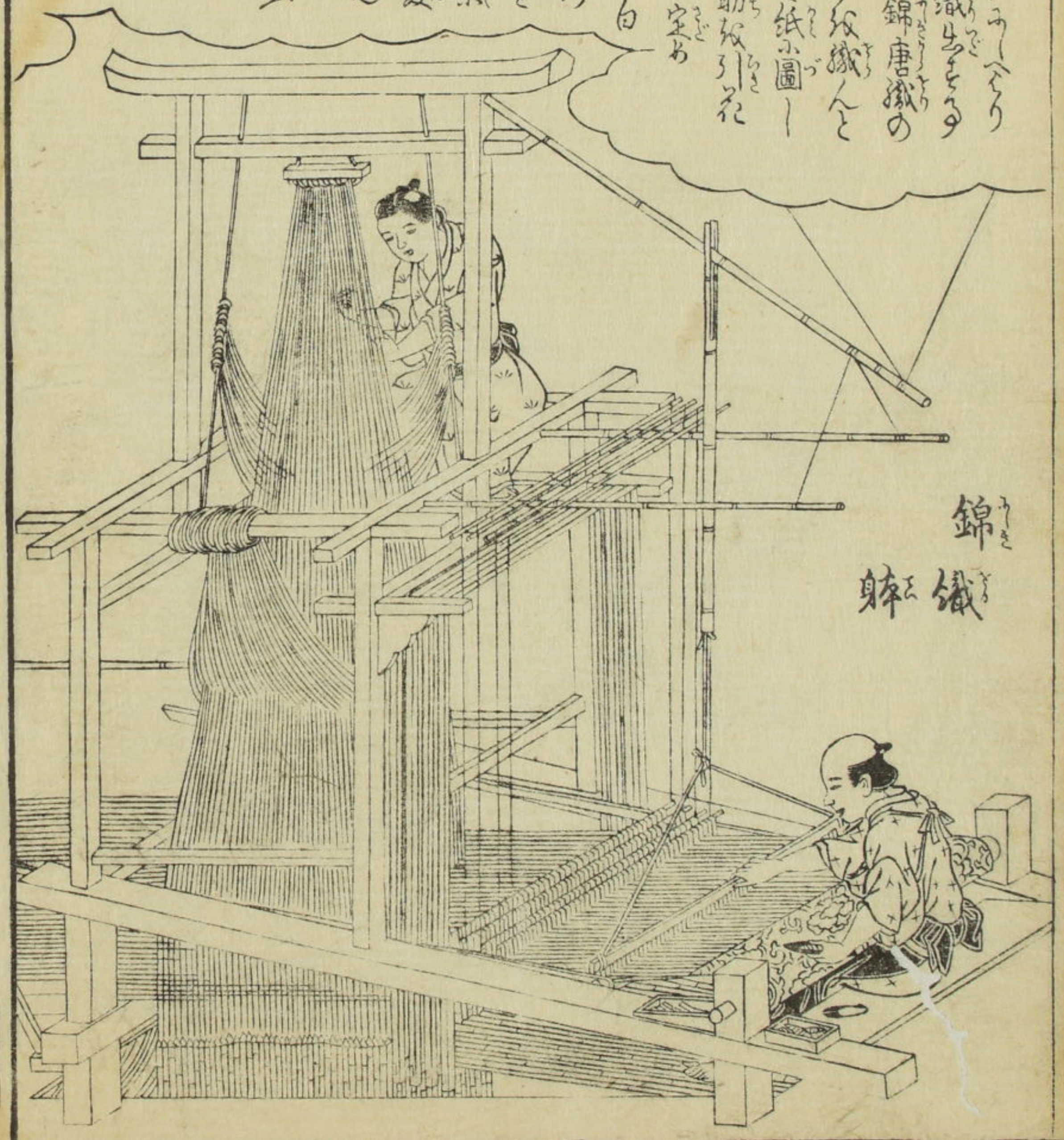
聚樂組と號する町敷
凡百二十町あり



般舟院

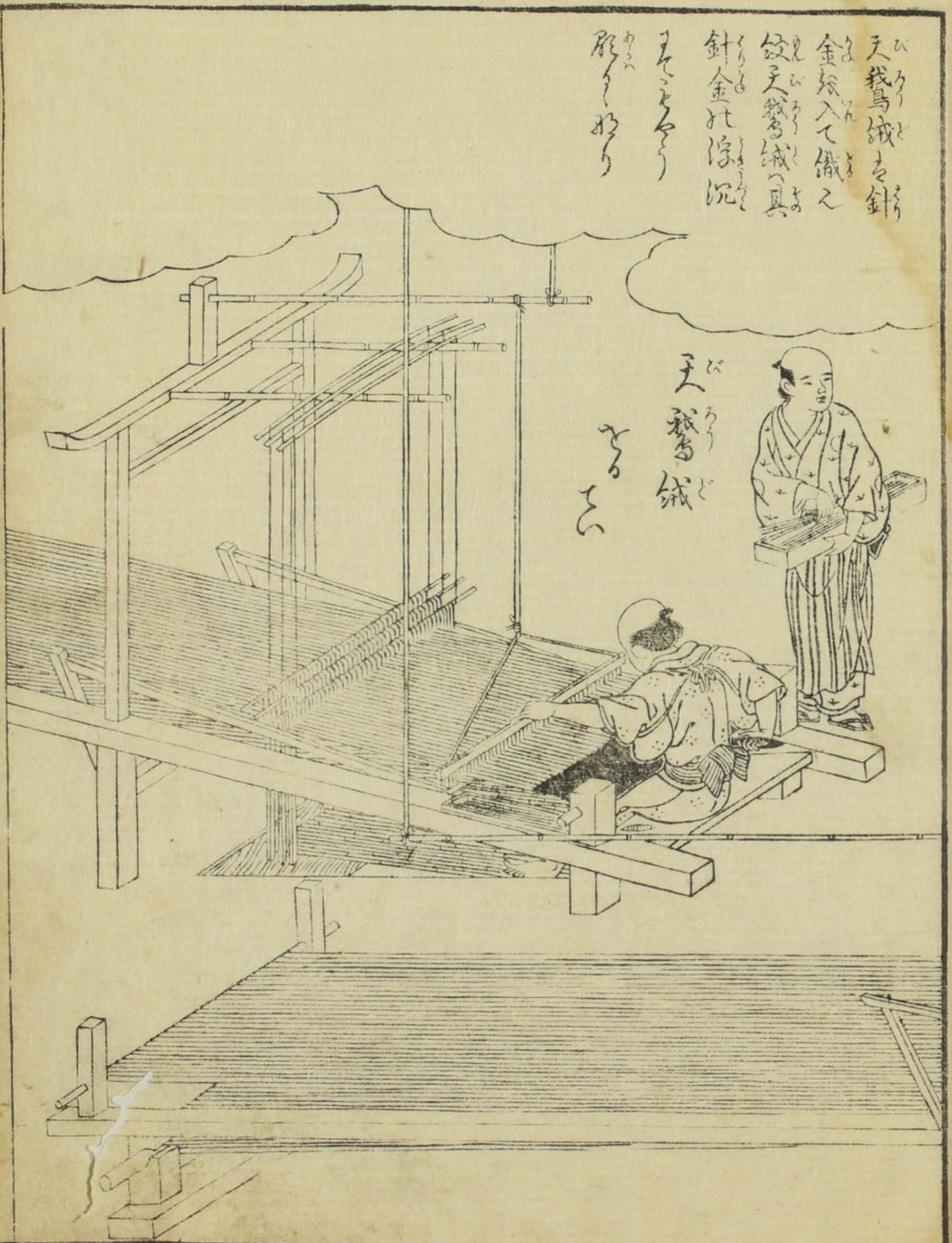


西陣は町小路の西へありて
 ところの呉服織は、その
 際限なく金襴錦唐織の
 るふと、新しきやうに織
 るに、耐に具地故に紙小圖
 堅様小糸は、かく助に引
 るに、糸数何れも、空
 具織物の機組と白
 る糸は、十分一乃
 雛股と梅、ありて、糸
 求めて、糸を、糸
 配して、糸の、地故
 あり、糸織、糸
 文は、け、高様と



錦
 織

天裁織を針
 金糸入て織之
 紋天裁織へ具
 針金糸浮沈
 天裁織
 形、なり



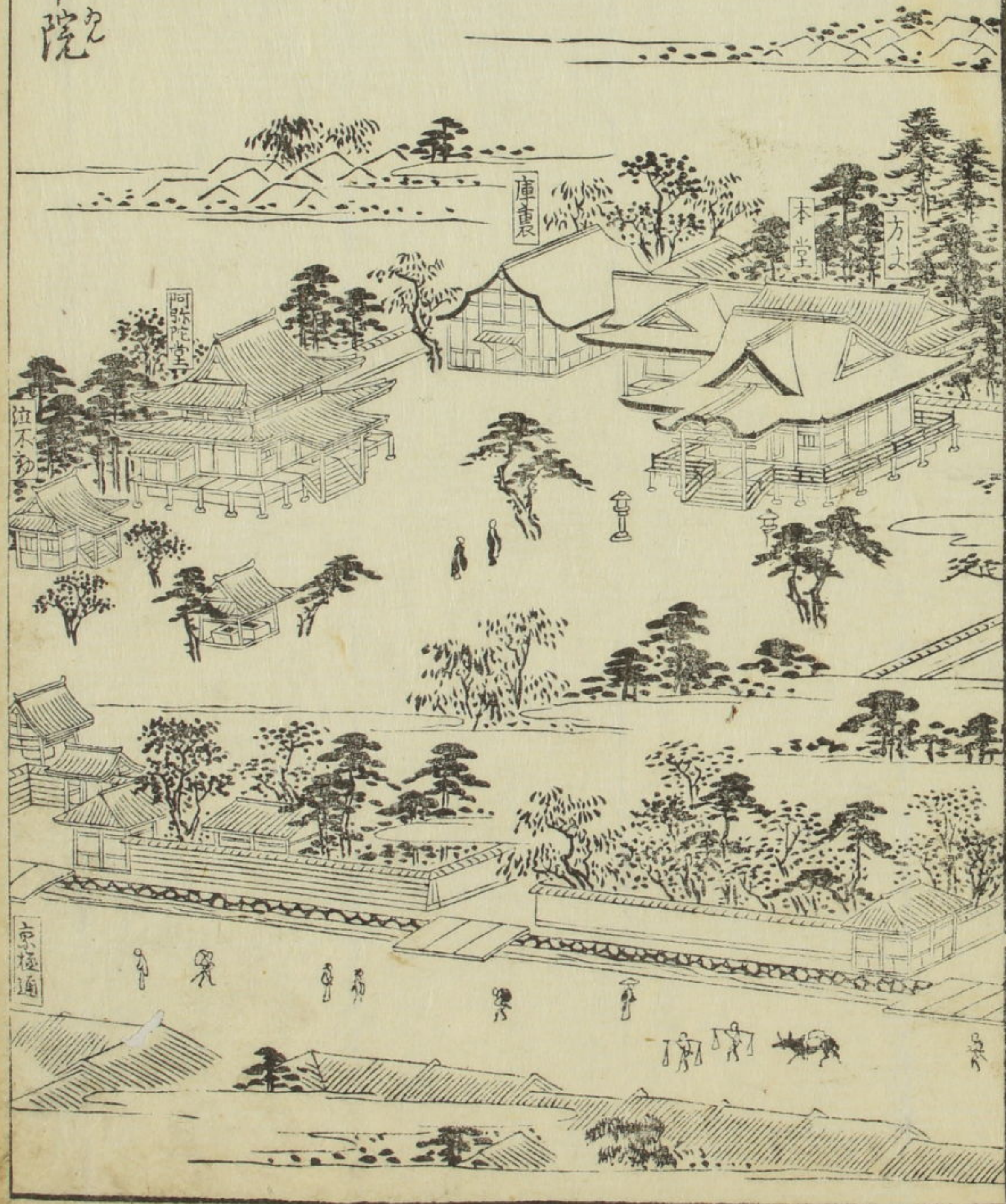
天裁織

淨福寺
大超寺



般舟三昧院（天台眞言兼學ありて）今出川通系屋町の西あり宗上（律）律
 禁裏内道場と稱し因山を惠篤上人善空と號し字は敬川諡は圓慈
 和尚といふ本尊は阿彌陀佛に坐像ありて慈覺大師に化有り帝王歷代乃
 神牌寂安並に後土御門院に御塔の本堂の西あり式子内親王の塚
 當寺あり定家葛城墳といふむ（此地定家卿の別荘あり門前の辻に定家の辻と
 稱す）當院初は伏見の里指月あり文祿二年此地に移す
 惠照山淨福寺一條れ西あり淨土宗ありて智恩院に屬し本尊阿彌陀仏
 弘法大師に化有り開基を弘蓮社深譽上人本堂の額を淨福寺
 と書して後奈良院の宸筆あり
 安穩山大超寺淨福寺に西あり右日宗ありて本尊阿彌陀佛に惠心僧都
 伊勢右神宮小七日系寫し有りた阿彌陀の三尊堂中以理下あり刻其
 尊形と摸して三尊を辨あり具時化人來り其化故世人神明の所化といふ
 西陣といふ明德に頃と名細川に兩執權洛中よりこれを教有合紙あり河堀川の西
 一條より北屯とて西陣といふ堀川より東と東陣といふと
 委（委）應仁記

浄華院



廬山寺



蓮臺山阿弥陀寺の京極通鞍馬に南あり浄土宗ありて百万遍に属し

本尊の阿弥陀佛の弘法大師の依之開基と清玉上人方丈の織田信長公
同信忠公の影像故安に同兩公の墳其外明智秀秀殿逆に附本社寺
みおろく討死の長教輩の墓あり 清玉上人信長公の寵をうけ

華宮山十念寺の阿弥陀寺の南あり右日宗ありて本尊阿弥陀佛の弘法
大師の依之開基の真阿上人 永享十二年七月二日寂し遺命よりて多羽川に
水葬に年六十六後村上帝の裔孫あり

廣布山本満寺の十念寺の南あり法華宗ありて開基の日秀上人の祖師堂
日蓮上人の像の初丹波國黒田村あり所の人熱病に發して死するもの多し
あれ則は像の祟ありとて檀小入て山中に捨りまうり皇霜累て初とて

あり附中に讀誦は拜あり村民は夜あやふらふに窺ふは尊像に
得たり則同所生福寺の安並に其後宇津宮心覺といふものありは奈に
ちて都小登り市中に傳ぬる寺の日重上人とて高祖の像ありとて速小
買ちりく當寺の安並せり 折後とて寺に置かれし像ありて當寺の門徒等に
一はみいへ三六師の像といふ新著國集よりと

浄華院の京極通今出川の南あり浄土宗ありて本堂ありて法華上人

の像と安並一阿弥陀堂の本尊の惠公の依之 當院よりて天台宗ありて法華大師の
馬丸の西あり肉裏に造りて 中興と法然上人より第五世向阿上人の俗姓の
内道場と稱せり故に山號あり

源成ありて武田安藝守時綱より舊の園城寺の住侶浄善房證賢と
號し弘安十年發心して離るあり洛陽花園院に移れ且後當院と開基に

身代不動尊 當院の安並よりて三井寺の智光法師重福にうけしは女陪
暗明諸社より新りて日をとて命終の期本より徒身の中身代より立

命を斷るにといふ具に聖空の常持念に不勤尊を中より示現して安並に
依師の房智光法師も病難を免れ身をくつる今も安並に

廬山天台講寺の浄善院に南あり宗旨 天台律 兼学あり開基の惠上人あり
て與願金剛院と號し中興の住人ありて一日化人たりて唐の惠遠法師ありて

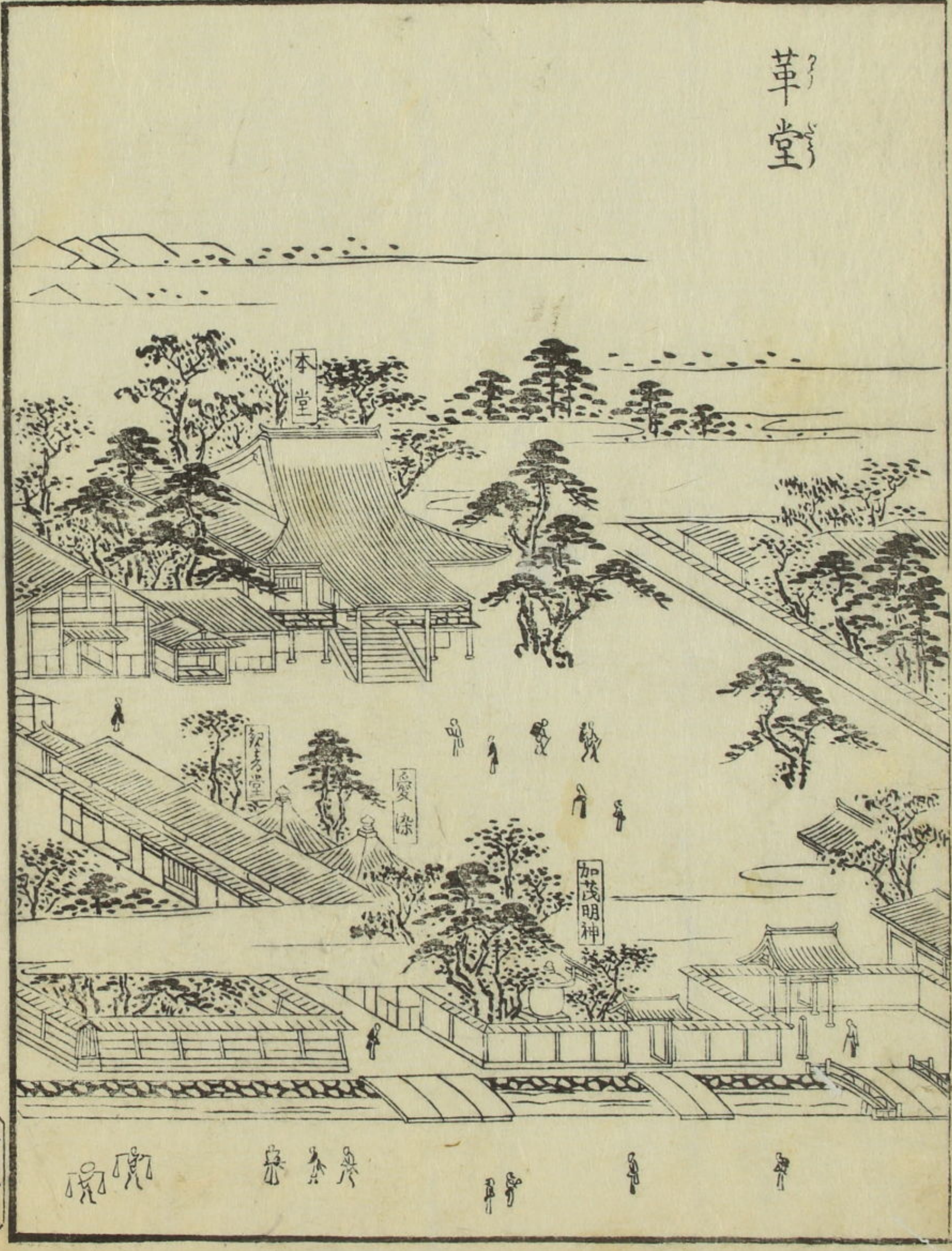
廬山の二字あり住和尚ありて故小廬寺と改むるありて大師自化の像に南に
壇上あり茶師佛と安並 聖徳太子の依之
小原の茶師と稱し 此壇上あり聖観音の像あり 傳教大師の依之世に
船來迎記より稱し 當寺

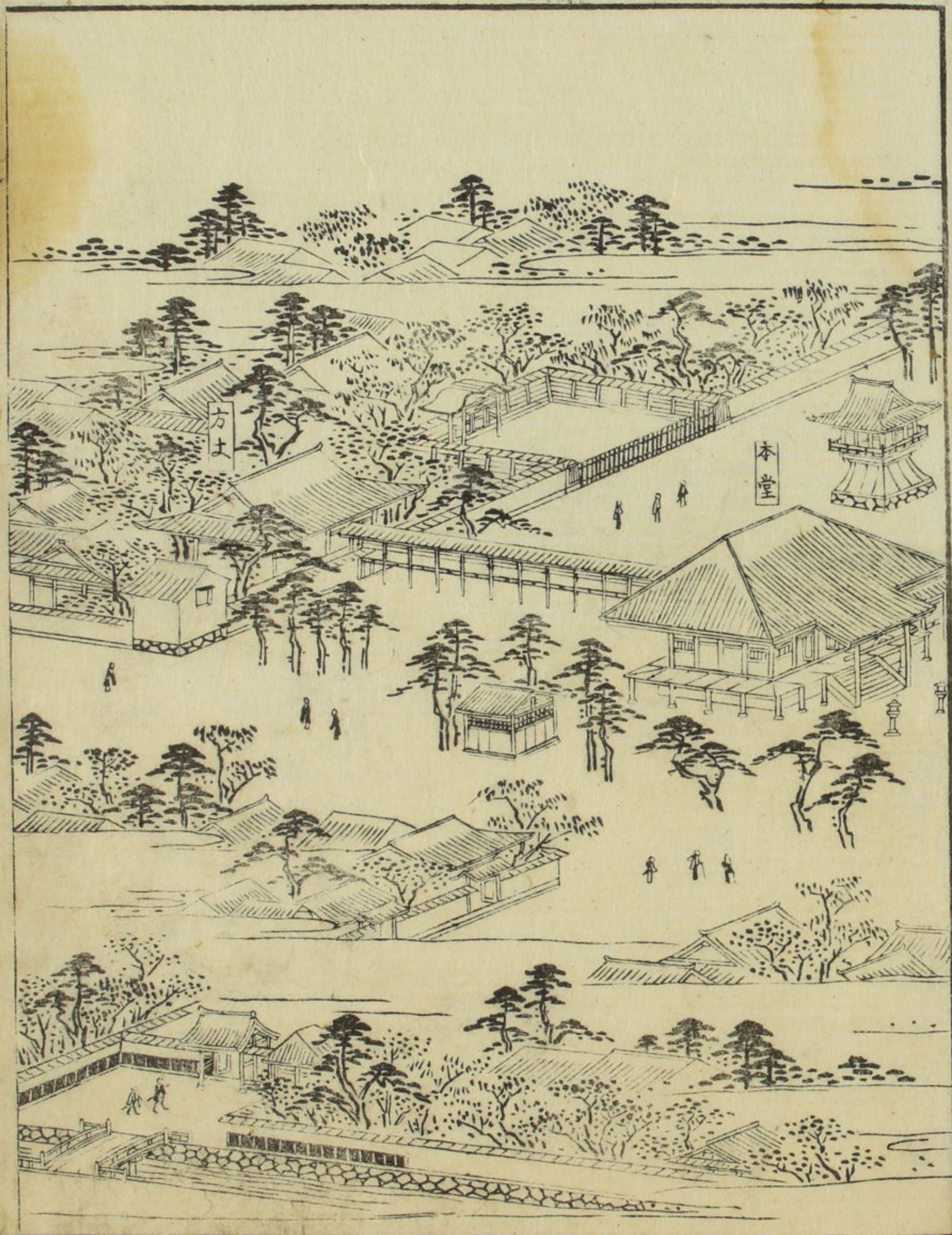
は什物は法然上人自筆に選擇集ありて親鸞聖人自筆に四の文あり 聖徳太子の依之世に
傳教大師の依之世に

下御靈社



革堂





本能寺



高田
専修寺御坊



源三位頼政の旧蹟の火炊御門今の竹屋町 京極北西より

二月のほいさつに頼政公の御廟ありて
はかりとて掃部をせんとおのふにむして
はかりとて掃部をせんとおのふにむして
はかりとて掃部をせんとおのふにむして
はかりとて掃部をせんとおのふにむして

君のまむるれ指れらぬるはりけりれとて花を手お

頼政

とて人ありてやむきせとてを乃指れりりり

高松神明へ姉小路新町北西より此地は鳥羽院の帝長門守師行の御てら松

の内裏と造らしめ
神社の内裏の旧跡を今社僧の住居とす

西行水の三條坊門室町の東より
後中れ名水より西行上人は地に住居し
は井の揚枝を以て汲みたりとす

曼陀羅山天性寺の系極れ之際あり浄土宗ありて本尊阿弥陀佛の惠ん乃

依り織姫親着
中将姫の御世言の化身あり
故に依り織姫親着とす

久田の金剛寺の天性寺の南隣浄土宗ありて本堂地藏の満堂上人の

化り夕鳥薬師
本堂のあり
安曇氏



生洲

生洲といふ高津川筋三條の
 小川の川筋橋をよむらひもろ
 とろれ魚もや梅程と客とめて
 あゝ酒肴を商の王祥の巻に感や
 羅も張翰千里とや人難も忽ち
 川辺に生洲は世と都に風俗を
 まのあゝさかす婦人の木葉を
 三弦の音曲とたはむらうより
 け所の夜とさかすいほ人ゆ

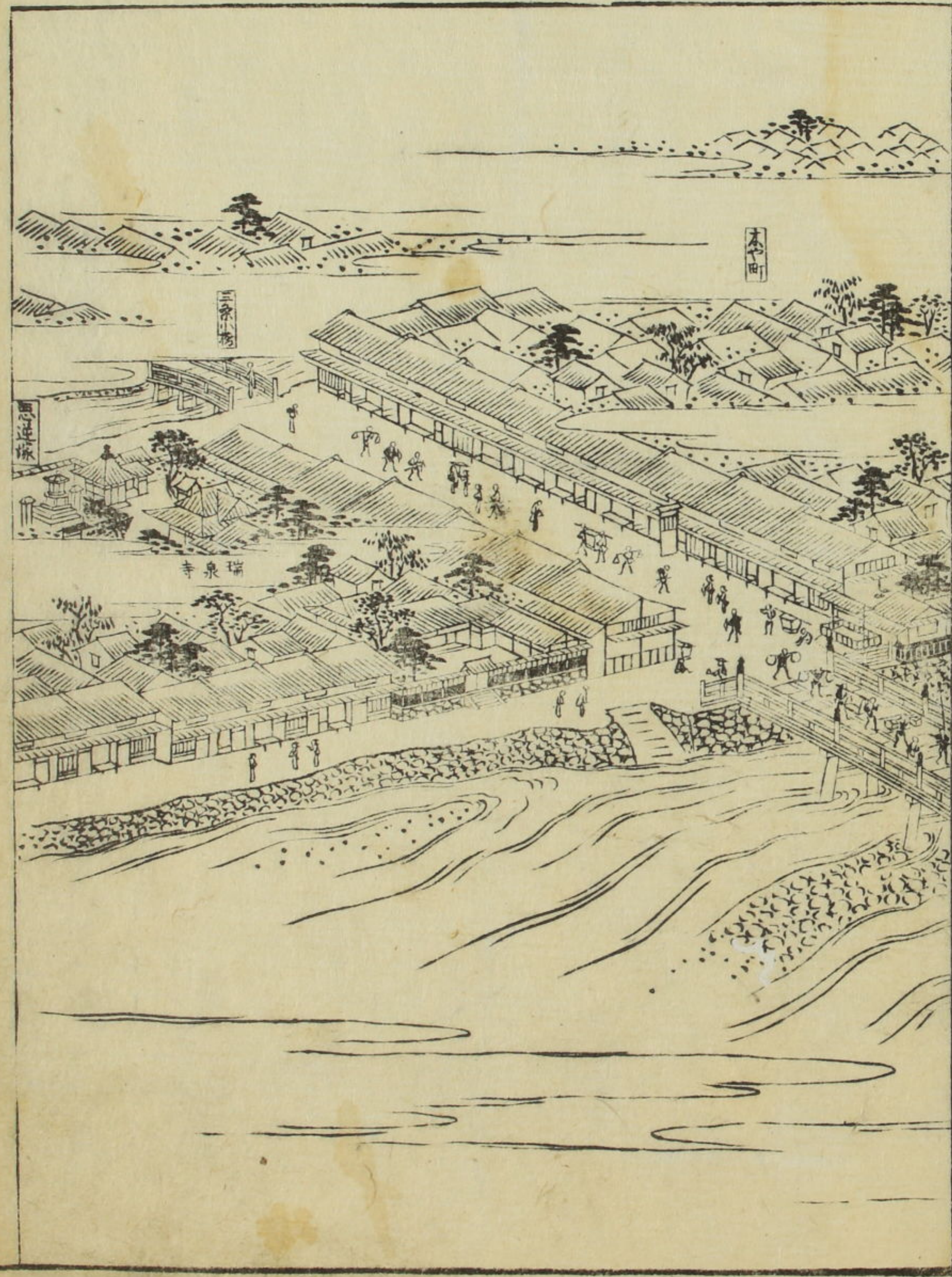


三條橋を東園より平安城に至り喉口あり貴賤の行人常々多くして皇州
れ繁花の橋上より欄干より紫銅の擬寶珠十八本ありて悉
銘刻其銘小曰 洛陽三條之橋至後代化度往還人磐石之礎入地
五尋切石之柱六十二本蓋於日域石柱盪觴乎天正十八年庚寅正月
日豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之

檀王法輪寺と三條橋東瓜あり淨土宗ありて本尊阿彌陀佛の惠公に化之
古ハ悟真寺と號して良忠上人に弟子道光法師建立を應仁の乱後荒廢
乃ハ慶長年中代中上人再建ありて梅檀王院と号し 今略して檀王と呼ん
又條橋東の隱居一袋中庵 主夜神祠を同基代中上人の初造之縁記小曰
慶長八年三月十日代中上人別行入て念仏の念ふに終つて朱衣の
青袍を着て光明の中に居れ上人告て曰われ華嚴經の説くや 娑珊
婆演底主夜神之專修念佛の行者は擁護とすと 則ち般若の授けを
應驗新ありて常々詣人多し 慶長以來の當寺寶藏あり近年今此堂を鎮坐
應驗新ありて常々詣人多し 慶長以來の當寺寶藏あり近年今此堂を鎮坐

鎮守ハ加茂大神宮故あり 當寺建立より以前の勅造なり古鴨川
龍王祠も鴨川の東岸に大なる池あり悪地とて人と害は 袖留池藏
由未詳 三株松 樹中上人慈濟三所
瑞泉寺と三條小橋の南あり淨土宗ありて本尊阿彌陀佛を聖徳太子

これより同基ハ三空桂叔和尚本願の園白秀次公の母堂瑞龍院あり
秀次公退悼れ為し建立しあり 則秀次公故 文禄年中に秀次公
右衛門秀吉公に對して逆を企て故に紀別高村公入へ之自殺を
首と取て三條河原に梟又二十余人に妾婦并推子共け所より
て斬罪して同穴に埋む其後塚を筑て上を截石あり銘小曰秀次惡逆
塚文禄四年七月十五日と書く 舊石塔あり妾婦二十余人の墳あり
先斗町の鴨川の西岸三條の南より川邊に水樓の如く軒端なつて
坐して洛東に風系を賞し酣歌の英客より群は
花結乃底より雲ゆく流れの句 鬼貫

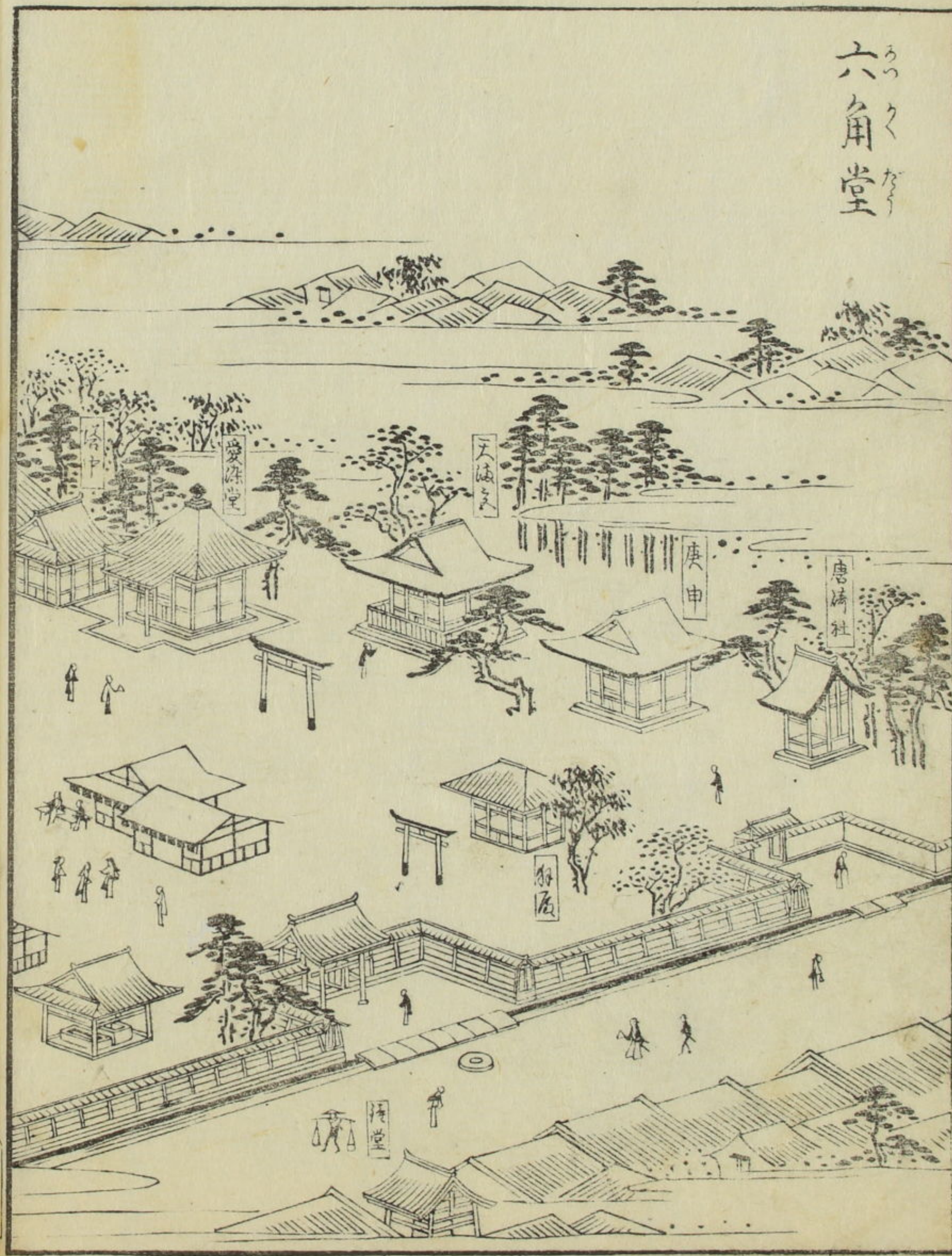


所八幡社ハ八幡町一名
 高倉の西あり足利尊氏公
 康永年中に勅許せり號と
 鳳凰山等持寺といふ
 因師も曾あはに信ありとぞ
 池と云ふもさるはむの普光
 園殿下れ亭ありて其庭ハ
 池あり今兩替町池のハ
 人家の裏ハ池の旧地少
 遺より鶴松ハ池に通
 馬丸の西の石橋と云
 け水車ハ池の
 橋の旧名あり



夕立や
 法善
 のけさ
 阿弥陀
 堂
 具角





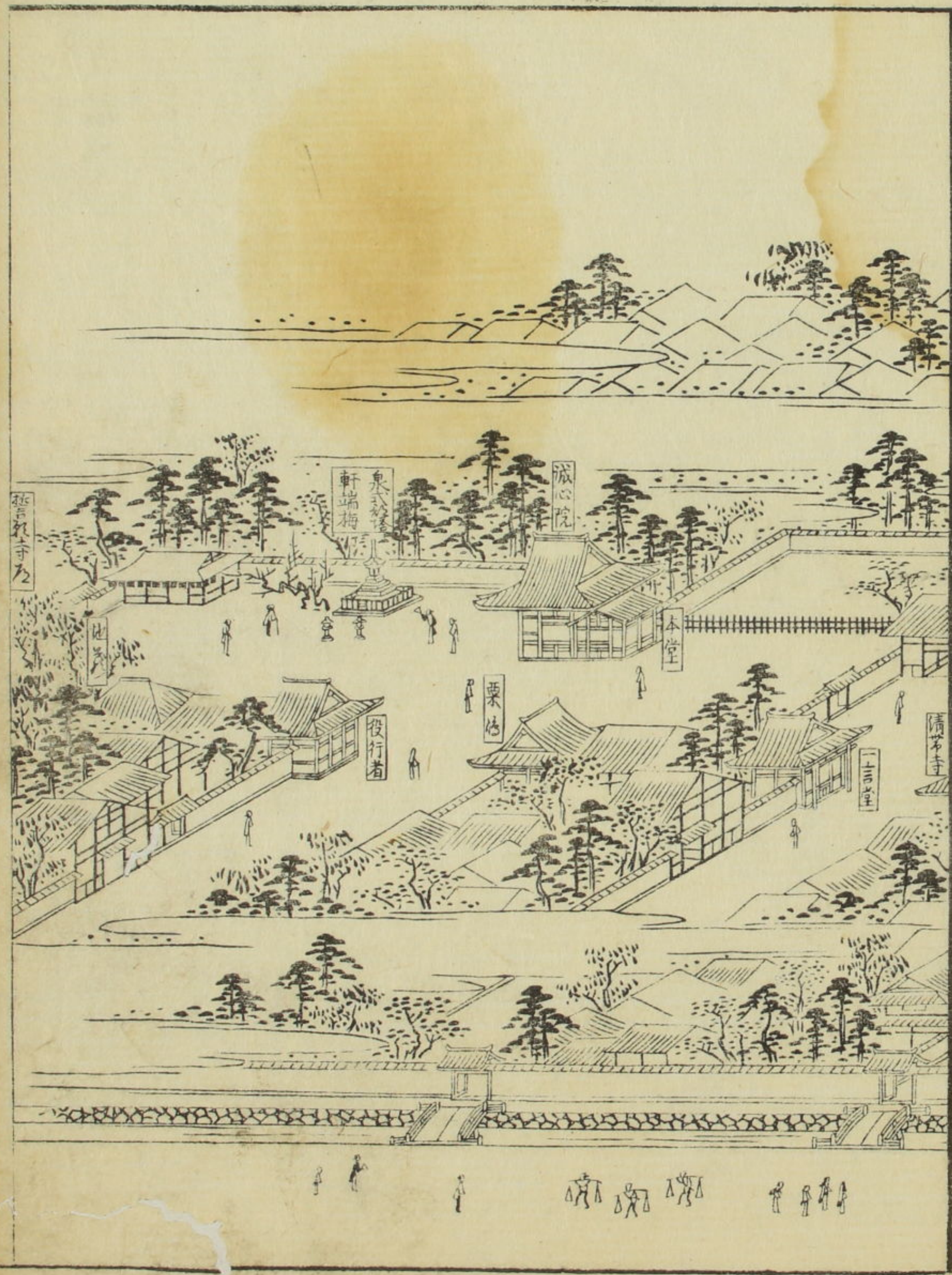
六角堂頂法寺の六角通馬九通のしんぐみあり天台宗よりて開基を
聖徳太子あり本尊如意輪観音の金像あり長一丈八歩之西國十八番巡
三十一番 柞此尊像をむく 隆治の山岩屋浦に夜に光あり漢人ありとあり
一の細とありともみ朱れ唐櫃張澤より具槌の上正光如意輪乃
像一尊 隆上日本玉之王家とせりよめて因裏小献りみ太子早く
ぬして果あを我前生七世の持尊よりと尊崇し常小隨身あり
時、撰別四天王寺を造んとて材本所に求らる具頃け所と山祇折田
御土車里より太子は多衣徘徊あり來り清水小深のんをわたり像と
榊樹ふけ並浴とて像張るふく重くあり離るまふ一具夜乃
爰小本尊告て曰我太子のふ持せりて七世今又け地は固縁あり頼
ありありて永衆生利益せんと言ふ然る東方よりまの老嫗來りて
曰は傍み木本の板あり毎朝紫雲を履くは是と靈材有りといふ太子足
とありあり初きりてめ化木一椽も交は六角堂と堂の具後二百八十餘

歳を經て桓武天皇都治あらん定まらるる府官使條路と極むる六角堂小
後の中み當まるる皆足反愁りともを建立精舎改他所移らんといひ
と海法一々いへ俄に黒雲よりて堂自五丈斗の方小退り故事ゆへく
小幡坂通して都とありふたり 一説は高麗國光明寺あり尊像あり然るの圖
池坊に立花 當坊住職の中専慶法師より奉安あり本尊ありといふ食飯とてとと
感あり立花の秘密と靈系授けたり其後中興あり其心切なる當寺は
毎年七月七日二星たよりて都鄙の門人方たより立花のよありたる法の法人群とあり
錦天神社系極錦小幡東の當ありなる所天満天神之鳥居額に天満宮と
書きて青蓮院尊英法親王に奉之拜殿の額寶鏡寺宮理秀尼公の筆を
宗貞の時宗よりて紫苔山歡喜光寺河原院六條道場と號し開基一遍上人の
甥聖戒上人の字亨二年二月十日寂に 當寺の旧地は東六條本願寺の境内に在り
寺あり千鳥池 當寺庫裏の後あり 埴電社 千鳥池の中あり
柞當社の寺内の鎮守よりて古い大長融公の像あり中頃より
天満宮に勧請しり



錦天神
にしんてんじん





圓福寺
鮎薬師
泉式部
軒端梅



大本山圓福寺の京極通四条坊門 今の蠟茶師 通といふ 其東にあり浄土宗源州流
 義の一本寺 いふへは室町三條坊門より今圓福寺町といふ 本尊阿彌陀佛ハ法然上人の作なり
 蠟茶師ハ永福寺と号して永福寺の境内小あり 旧地ハ三條室町之 水上茶師といふ 本尊茶師
 佛ハ石像にして長二尺傳教大師の作 舊比麻公の山谷より又蠟茶師と號するハ 旧地ハ澤あり足ふり例て部下の人澤茶
 師と稱せしは後世誤つて蠟茶師といひ風俗せり いふへは堂の梁の銘ハ三條室町 水上茶師堂と記し作り ○鯉池藏ハ堂の前より由來繁よりの略
 西光寺ハ蠟茶師の小隣り虎茶師ハ弘法の作 師會堂
 長金寺ハ誠心院の西向いの一言堂といふ本尊十一面觀音ハ弘法の作 舊比麻公の 巡の基之
 清帶寺ハ西光寺の西向いあり本尊服帯地藏土佛して行基作
 作なり 懷妊の婦人安産辰 折る山靈驗新々
 誠心院ハ西光寺の小隣り 俗ハ和泉式部といふ古ハ小川一条の寺あり御堂園白道長公の 草創しして和泉式部もけ寺ふ入て尼と号して僧一之
 本尊ハ阿彌陀佛脇壇ハ圓白道長公の作安産辰和泉式部塔軒端梅の
 形端の梅枝傍に龍僧師紫藤軒言水の墓あり
 風は果る有り海乃音
 言水



和泉式部ハ
 我守推致ガ
 女うて休お
 ふとめて世り
 鳴又美顔
 曼前附の人
 されと暮入
 四十茶の次
 より尼ふあり
 誠心院乃
 小清堂アノ
 專末末の資糧と
 一遍上人誓言をもつて所札
 と弘ちのふくた具靈魂
 現れ上人は回答せし謠
 曲の慈きも宜るらん

誓願寺の極三系あり澤土宗より源州流儀の一奉寺あり本願を
 天智天皇開基の惠隱僧都より和和列平城あり祖武天皇遷都の後上
派信僧都も暫く住し十餘世の後藏俊 本尊阿彌陀佛ハ長八尺ハ坐像
 ありて佛工賢同子あり國兩人の化あり又本尊大明神像ハ鏡向ありて柱
 助あり故春日の神化あり佛面ハ本尊のくろくありあれ天智帝の唐宗あり
腹内ハ五徳六勝あり希代の靈化あり奇驗多々著
 額ハ大覺寺空性法親王の筆當寺再興大徳主大相國小幡方 六字額ニ遍
 上の筆之堂内の壇上あり天智帝の宸紀慧隱和尚の親と安良之重
 塔とえ和八寸ハ草創ありて本尊ハ谷樂師あり開山堂あり法然
 上人の像あり釋迦堂ハ寶冠釋迦佛と安良及鎮守ハ春日明神五輪
 石塔ハ秀吉公の愛妾松丸殿ハ墓法名ハ清方院月晃盛久禪定尼と銘
當寺再興の施主ハ檀那塔と銘
 辨慶石ハ方丈の庭假山の上あり心ハ二系系極の西 柏石ハ小方丈の西
 手洗鉢ハ本あり羽二重井ハ方丈のあり當寺ハ什物ハ烟除佛舍利ハ
 弘法大師より傳來とて又法然上人の一枚起信原善嘆と一休和尚の字あり

表具の中縁ハ紫地の牡丹ありて古竹ハ明徹之其工ハ白 一枚起信原善嘆と一休和尚の字あり
 小縁ハ紫地の家来ハ足と誓願寺切安良房とあり
 傳聞法然活如來 安坐蓮華上品其室
 尼入道同愚癡輩 一枚起信文寂奇哉
 南无阿彌陀佛
 け外達廣虚堂ハぬとの唯法然の一人奉と
 存者ハ我々今日より澤土宗ハ激ヤハ穴賢ハ
 應仁二年二月五日 新酬恩院主 一休別
 佛所さぬ
 當寺の境内ハ红梅數株あり如月の夜ハ都下ハ人々ハふあり
 未開紅の艶ハ色ハ賞して羨観ハ
 立ありぬ本とありハ梅花
 塔中竹林院ハ小堀遠列の親ありあれハ遠列の 庭中の風景
 絶倫ハ長仙院の庭佳境ハ世々ハ

柳水の西院三條に南小あり
 いふ所に風風ふ青柳を
 又法道場ありはるふ名は
 又いふ所に鬼殿ありはるふ
 柳小曰有佐々宅悪所ありはる
 又朝成悪霊ありはるふ明徳
 の兵火の田禄せしるる



空也堂鉢うたい茶室を
 賣て業くんむり村上
 天の此佛宇疲痛ふくや
 了そ此とるもの故あり
 空也上人の依憐念る
 此像を依り茶室を湯
 飯わしねまに供し具茶湯飯

空也堂
 法人小よつとまより
 疲たらしら平愈
 して長寿とせり
 帝たれ飯飯感
 わりて右例
 毎年の三つを
 空也堂の茶室
 して茶飯とて
 あは飯服とて
 年中非氣なむね
 くとし帝より初め
 より今に王服とて



紫雲山極樂院光勝寺の四條坊門坂川の東敲町あり空也堂と號す
て黄蘗高泉和尚の筆あり本堂の額一丈一尺二寸あり
極楽院の竹内坊門跡の筆あり 宗有念念佛宗と稱して本堂あり空也上人
自化の像衣本尊と及脇士の地藏毘沙門天之北の脇壇あり坐像の阿彌陀仏
が安坐して是行基の化と云空也上人の像あり 定盛法師香爐
法師の像安坐して杵杵也上人延喜帝第二の皇子ありが塵外れ無為
板樂志願はしく夕日の逐は出家のゆゑ玉樓金殿と名いで小山鞍馬山奥
小蕭然として山居のふ懐鹿夜をきて閑坐と慰る上人是を憐れ具聲と
愛する東源一日鹿來ると終る平定盛と云との遊獵して鹿と持たり
けこめぬを討てし由依い上人大熱傷一具鹿と得てはと求ると一角と投の
頭小狹て常小携り獵者定盛上人の法徳を歸入し御子に教化し何せ
妻の衣具一頭有髪れ俗袂めて衣依着 瓢と敲て上人化れ和漢
と風て寒中五日夜と五三昧市中を依徘徊し淨土往生の因と號す
境内八軒あり鉢鉢と称し徳止庵金堂之房壽松房東坊正徳房利徳房南坊西光殿
房をとり皆定盛法師南齋あり常は茶釜を製して業す

上人定盛法師より示しある事
山川に末し流るるをたてて身を捨てて身を浮むとあれ 空也上人
十載 極楽をとりはかりたりと云ふ事ありと云ふ事あり
空也上人出誕の延喜三年之 月日不詳入寂の天禄三年九月十一日奥別會津河
卿八葉寺を往生故遂ち八十七也 京師より戻東の路あり十一月十三日は日 當寺
け什寶五品あり片破鯉口 上人加茂社系統の附明神出現す未世衆生念佛往生の證據す
衣替鯉口 松尾明神老翁と現し上人は渴して曰は頭のかれ供は繁若經の法時をけ
使補せりけれは公あれや空也のいふやをいふはゆきとせりけれは衣を著しては花経をいふ
既ち四十年具妙香の著りけ衣を七はゆきとせりけれは衣を著しては花経をいふ
さあはてはゆきとせりけれは衣を著しては花経をいふ
け衣の鹿の鬚あり今松尾の社ありと云ふ
繪詞傳 空也上人の傳記あり清蓮院門跡尊證法親王の 御加衣抄表 東福門跡の
筆之真の公卿の書合書繪の海北友雪の筆
神泉花の御池通大宮に西あり 直言宗より東寺 善女龍王社の池の中橋あり
例祭の八月 二重塔の八日如ま本尊と云ふ法成就池といひり大内
朔日あり 裏れ時の封境廣大ありて天子遊覽れ地 拾芥抄より二条の南大雲の西
乾臨園と云て近湯次將級別當職 庭中小の巨勢金圍石を雲く風 八町二条の壬生の東云 池邊あり



光敏縣守敏諸龍苑（一）紙中入弘法大師天竺無熱池の善女龍
 神と傳へ天下早魁れ愁しと投て獻感と世家小野小町も和歌と詠して雨と降
 一鷺の宜月とうけて羽と伏蹲れ官人あんな安くと捕へむ帝御感おあり又
 位は爵と賜りしをい所へ又白河院淨遊の付聽故つらせを獻感あるも務は
 池中入て金覆輪のた刀と喰わえ上りたり早より銘孤鶴在り山宗徳院（二）
 六条判官為義此河劔と揚りたり祇園會もつた始り弘仁二年まゝる後祓
 帝は苑中小於て花は宴あり早を宴の始る奉朝文粹源順の曰神泉苑を禁
 苑の具二より紅林地度うと楚後夜會中小る緑池水高うと七兵江坂眼
 下は縮むとより星霜漸累り遂に建保十頃より荒廢ふ及ふ承久の乱後ハ
 武列の禪門築地成高き門と堅て修造ある具後又おれて旧跡幾有り
 とえ和の夜心筑紫に僧覺雅とつて官小申て再興し真言の聖地とるに北野
 右近馬場は神泉苑等へ終りたりとつとも是之内裏の遺跡有り

聖蹟

